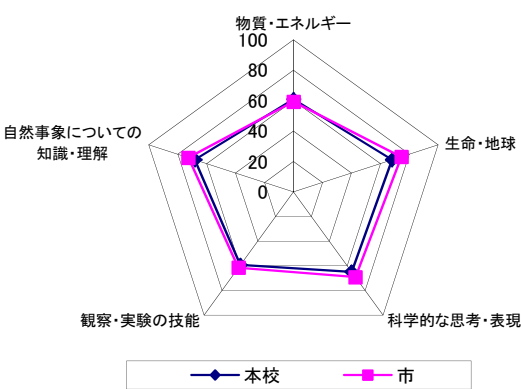


宇都宮市立新田小学校 第5学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	60.8	59.3
	生命・地球	68.1	74.4
観点別	科学的な思考・表現	65.0	69.2
	観察・実験の技能	59.4	61.6
	自然事象についての知識・理解	68.1	72.7



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・ 宇都宮市の平均正答率と比較して1.5%上回った。ものの温度と体積に関する設問で、金属のふたを温めると体積が大きくなり、容器を開けやすくなることについては市の平均正答率より11.8%上回った。また、水の入ったペットボトルを凍らせると危険な理由を答える設問では、市の平均を6.3%上回った。しかし、空気を温めたときの体積の変化が水や金属の変化よりも大きいことについての正答率は、市の平均より7%下回った。	・ 物質・エネルギーの領域では、市及び全国の前年度と比較して、概ね同程度かやや上回る傾向であった。視覚に訴える実験を行ったり、実験の結果や考察を自分の言葉でまとめる活動を継続して実施していく。 ・ 空気を温めたときの体積の変化を視覚的にとらえることができる実験を行い、結果や考察を自分の言葉でまとめる活動を授業に位置付ける。
生命・地球	・ 市の平均と比較して5.3%低かった。メダカのたまごの観察の仕方を指摘する設問では、21.2%上回ったが、顕微鏡の視野を明るくするときに使う部分を指摘する設問の正答率では、宇都宮市の平均正答率を7.7%下回った。これは、本校で使用していた顕微鏡が設問とは異なるタイプのものであったことが原因と考えられる。また、植物の発芽に空気が必要かを調べる実験を指摘する設問では、市の平均正答率を14.5%下回った。	・ 顕微鏡の使い方を指導する場面で、光源装置を用いる顕微鏡以外に、反射鏡を用いた顕微鏡の使い方も合わせて指導する。 ・ 条件を統一して比較するという実験の基本を踏まえ、実験を計画する力を育てる授業展開を進めるとともに、結果をしっかりと把握し、考察する場を位置付ける。